

「家がいいね」 第68号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2010.1.4

行く年

大晦日の晩は、外宮に感謝の気持ちで参拝しました。今年が多賀宮（あらたかさん）・土

宮・風宮の別宮も参り、寒風に見上げると月も冴えていました。子供達は篝火での餅焼きが毎年楽しみです。

売ったらあかん

友達を 売ったらあかん
子どもらを 売ったらあかん
まごころを 売ったらあかん
本心を 売ったらあかん
情愛を 売ったらあかん
信仰を 売ったらあかん
教育を 売ったらあかん
学問を 売ったらあかん
秘密を 売ったらあかん
まごころを 売ったらあかん
大自然を 売ったらあかん
いのちを 売ったらあかん
自分を 売ったらあかん
自分を 売ったらあかん

2008年没 岡部伊都子
「遺言のつもりで」より



本当は売り買い出来ないものが、成績や業績の数字に換えられ、時間も買えると思わせる社会です。未来までも売り渡そうとしています。きっぱりと拒み続けるにしても、しなやかな心の有り様がないと、得だ損だと売り買いし何でもエエんやと、そのまま魂（たましい）も売り渡す事になると、岡部さんから日本人へ向けての遺言です。この詩は40年前に作られていました。私も悩む人へは「今のままでもエエんや」と言います。だが大切な自分を売ったらあかんです。

来る歳

1950年生まれの私ですから、暦が一回りしてることになります。年賀状には、下の「寅だるま」をカットに挟みました。

この先を生きるに当り、他人の歳を目安にする考えは自然に浮かびます。あの人の歳までは生きたいなあと思う人がいます。

一方で若くして亡くなった人の歳を考える時、その人のあるべき残りの歳月が私を後押ししてくれているのではないかと感じることもあります。高校の友人は、無茶をし放題の青年期に、ひよつとすると私の命を繋いでくれたのかも知れませんが、開院して、やがて8年になる歳月は、父が後押しをしていてくれるのかも知れません。

綺麗な年賀状を見て思うこと

お正月などの休みを海外で過ごす人も多くなり、綺麗な景色の写真が添えられた年賀状を沢山頂戴します。世界の何処へでも飛んでゆける時代です。羨ましい気持ちもありますが、私は時間がとれるなら、テクテク日本を歩く旅がしたいものです。

今年の夢、あるいは望みとは

エンド・オブ・ライフをゆつくり語り合える人たちとの繋がりを作りたいと思います。そのためにも気兼ねなく集まれる場所を作りたいと思います。場所が確保できて、人が集えば、そこからホスピスの輪が広がるでしょう。デイホスピスも可能になるかも知れません。

今の在宅ホスピスの仕事も、そうすればもっと楽しくなるでしょう。その先につながるものが、実感できるなら、続ける甲斐が在るといえるものです。もし具体化できそうなら、改めて案内します。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>

